

1. 赤字予算だが、7.3%成長目標

財務大臣のアブール・マール・アブドゥール・ムヒスは、GDPの5%、予算上経費の4分の1に当たる675億52万タカの赤字を抱えたままの新予算を発表した。ただし7.3%の経済成長を計画している。新予算の経費は2兆5千億タカとなり、これは現在2億2200億タカより12%多くなっている。さらに新予算は1兆8200億タカの税収を計画しており、これは経費の73%に当たる。財務大臣は、「次の予算では、2期連続で政権を獲得したアワミ連盟の最初の予算となり、与党の“果たされない約束”に集中している。予算はインフレと民間投資に取り組んでいる」と話している財務大臣のアブール・マール・アブドゥール・ムヒスは、80年代最初のHMエルシャド時代に2年間の財務大臣を務め、これで8回目の国家予算を発表した。

2. 日本企業や日本市場に大きな期待

5/25からシーク・ハシナ首相に同行していた40人のビジネス代表団が、帰国後の記者会見で、「日本の企業は既製服、革、ジュート、観光部門のようなバングラデシュの可能性のある部門に投資することに興味を示している。近い将来日本はアメリカやヨーロッパに続きバングラデシュアパレル製品の輸出先の有力候補と見られている。バングラデシュは日本の企業家に向いている。と同時に日本は唯一の国としてバングラデシュの輸出業者の第2の大きな輸出大国となるであろう。もしバングラデシュが日本のアパレル市場の10%でも掴むことができたなら、バングラデシュの輸出収入は500億ドルを超えるであろう。日本は世界で第2番目に大きなアパレル輸入国だ。バングラデシュは日本市場に進入することが出来る。日本はバングラデシュの友好国である。またバングラデシュのインフラ開発のために日本から4700億タカの融資援助を受けることになった」ことを報告した。

3. パドマ橋建設開始

シーク・ハシナ首相は、パドマ橋の建設に取りかかった。先日、政府は建設に10億ドルが必要なパドマ橋の建設工事を、中国メジャー・ブリッジ・エンジニアリング・コーポレーション・リミテッドに発注した。シーク・ハシナ首相は、「国会で言った通り、我々は(橋の)建設をわが国の資金で開始した。陰謀者たちは政府とわが国を侮辱しようとしたと続けた。しかし、彼らの巨悪な努力は無駄に終わり、彼らは失敗したのだ。そして我々が勝利を手にした」と語った。しかし、首相は陰謀の背後に誰がいたのかは言わなかった。

4. 米国への衣料輸出低下

アメリカ商業局からのデータによると、アメリカへのテキスタイルとアパレル輸出は、2014年度の最初の4ヶ月間で1年前の同期に比べ0.56%低下し17億7千万ドルになった。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会副会長レアズ・ビン・マハムドは、「バングラデシュの最大の輸出相手国への輸出の減少は、衣料輸出の減少傾向を示唆している。ラナプラザ崩壊の後175の中小規模の縫製工場が閉鎖された。国際小売業者たちは現在衣料価格を値上げしておらず、注文はベトナムや他の近隣国に移行している」と話している。

バングラデシュはアメリカにとって第6番目の衣料製品の輸入相手国であった。中国は114億9千万ドルのテキスタイルとアパレルを輸出して第1位を保っている。1月から4月の間アメリカは328億9千万ドル相当のテキスタイルとアパレルを輸入した。これは昨年度の同じ時期に比べ3.23%増加している。同時に中国の次にリストアップされているインドは23億4千万ドル相当のテキスタイルとアパレルアイテムを輸出し、昨年度の同じ時期に比べ5.88%増加となっている。

4. W杯特需、5億ドル以上

一連の災害の後、バングラデシュ衣料メーカーは、世界中のサッカーファンのためにW杯のニットウェアを製造し、少なくとも5億ドルを手に入れた。バングラデシュニットウェアメーカー及び輸出業者協会(BKMEA)の指導者代理は、「W杯の注文のおかげで衣料製品の船積はおおよそ14%成長した」と言った。BKMEAは約1,000の工場のグループであり、おもにTシャツを作っている。「我々のうち約100の工場がW杯のニットウェアの注文を受けた。商品輸出に関するW杯のはっきりとした総価格はわかっていない。しかし、それはおそらく5億から10億ドルの間になるであろう。」とも語った。バングラデシュの衣料製品の船積は今年度の終わり250億ドルを記録すると思われる。これは昨年度よりも30億ドルくらい多くなる。「成長の大部分はW杯関連商品から来た」と彼は続けた。バングラデシュの工場はピューマやアディダスのような巨大スポーツウェアブランドへ衣料品を供給し、W杯参加の32チームのファンのためにニットウェアを生産した。

バングラデシュは中国に続き、世界でも2番目に大きな衣料製品生産国である。衣料産業は経済の大黒柱であり、わが国の年間輸出80%を占めてより400万人以上に人々に職場を与えている。会社オーナー・レザウール・ハサナトは、「私の工場だけでもドイツ、フランス、スペイン、ベルギー、イタリアそしてポルトガルのような国々に向けて250,000のワールドカップジャージーを作った。ピューマのバングラデシュサプライヤーの中にはブラジル、アルゼンチン、チリのサポーターのために約300万ドル相当の注文を受けた会社もある」と言った。多くの工場は国旗や帽子のような製品を作り、小規模のバイイングハウスを通して出荷された。BKMEAやバングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)のような大きな衣料取引団体では、その確かな数字がつかめていない。2013年少なくとも1,138人の命を奪ったラナプラザ崩壊を含めバングラデシュ衣料産業で立て続いたにもかかわらず、注文は来た。

5. チッタゴン衣料労働者、賃金カットに抗議

チッタゴンにあるアンビヤ・アパレル・リミテッドの数百人の労働者たちは、会社側が事前予告なしで部分的に工場を閉鎖したことに抗議し、賃金の全ての支払いを求めシーク・ブジブ・ロードを約30分間、閉鎖した。工場のジェネラルマネージャー、アクタール・ホセインは、土曜日に開かれた労働者たちとの会議の中で、「仕事の注文がないので、1.5ヶ月の間、8時から10時までの2時間だけ工場を動かす。その間は基本賃金の半分だけを支払う」と発表した。この決定に抗議し、労働者たちは賃金全ての支払いを求め、ストライキを始めた。その後、代表取締役アブール・ハシム・ラジャが工場を訪れ、工場閉鎖を繰り返して言った。この発表の後、怒った労働者たちは工場外に繰り出し、シーク・ムジブ・ロードのバダムタリの十字路を封鎖し交通を止めた。その後警察が現場に駆けつけ、労働者たちに道をあけるよう説得し、解決方法を見つけるように工場で会議を開かせた。ラマダンとイードが来月近づいており、賃金カットは労働者たちを困難に陥らせる。

6. 女性縫製労働者の窮状

ジャヤはカウラン・バザール地域の縫製工場で、3,000タカの月給で働いている。残業を含めると彼女は4,000タカから4,500タカの収入がある。彼女の夫メグナド・シークダールも縫製工場で働いている。ジャヤと彼女の夫は、ダッカにあるカタルバガン・モスクのスラム街に部屋を借りている。昨年の12月に政府が発表した新賃金構成の下で、賃金を受け取っているのか聞くと、見る見る顔を曇らし否定的な答えをした。「新賃金構成の下で賃金を受け取ることでできず、多くの女性労働者は仕事をやめている。ミシンの縫い子達がストライキをして、新賃金構成を導入するようにと要求を強行しても、縫製工場のオーナー達は、何の関心も示さない。私たちは8時から7時までで工場働いている。5時から残業である。このように一生懸命働いても残業代どころか賃金でさえ期日どおりには支払ってくれない。ここ3か月分の賃金をまだ受け取っていない。家族を養うためにダッカに出てきたのだ。しかし無残にも私たちの夢は壊れた」と明らかにジャヤは失望して語った。ジャヤの夫と義母と暮らしているうちの家賃は4,500タカである。16人で4家族が貸家の4つの部屋で暮らしている。彼らには4つのガスバーナーがあるが、ひとつのガスバーナー、共同シャワー室、二つのトイレを共有している。また飲料水が不足していることも深刻な問題だ。ジャヤは共同水道に朝早く水を汲みに行き、一日中その水を使えるように水がめに貯めている。

シーラはここ6ヶ月間縫製工場働いている。彼女は現在の工場に入る前に、他の工場で少なくとも6年は働いていた。連続3ヶ月賃金を支払わなかったため、彼女は前の職場から退職した。シーラは彼女の姉と部屋を借りている。姉もカタルバガン・バザール近くの縫製工場働いている。彼女はカウラン・バザールから昼食を取るためにうちに帰る。彼女は次の日の食事のために、帰る途中カタルバガン・バザールから野菜や魚を買う。シーラは、「新賃金構成によるとグレード-3のシニアのミシン・オペレーターは6,805タカで、グレード-4のオペレーターは6,420タカ、グレード-5のジュニア・オペレーターは6,042タカ、グレード-6の一般オペレーターは5,678タカ、そしてヘルパーは5,300タカと決められている。しかし、残念なことに男性オペレーターは新賃金構成の下で賃金が支払われているが、ほとんどの工場女性労働者は賃金構成以下の賃金しか受け取っていない。もし女性労働者と男性労働者の格差に対して抗議をすれば、失業する恐れがある」と語っている。

7. コンクリートの強度をめぐる対立

欧州の小売業者に雇われた検査官たちが、昨年度1,138人の死者を出したラナプラザ崩壊の後、工場の安全検査をしている。しかしバングラデシュ政府の工場検査監督官とアコードと呼ばれる小売業者のグループのエンジニアたちの間で、建物のコンクリートの強度をめぐる論争が起きている。政府の検査監督官スエド・アハメドは、「4月から検査の後、安全ではないと思われる6つの工場が再調査や閉鎖を拒否している。工場には数百人の労働者たちが働いている。私の管轄では、エンジニアたちのアドバイスにより既に14の工場が閉鎖した。その結果10,000人が仕事を失い、労働抗議や暴力の引き金となった。バングラデシュは世界第2位の衣料メーカーであり、220億ドル(160億ユーロ)のこの部

門は貧困南アジアの経済の大黒柱である。結論を出すには慎重であらねばならない」と言っている。

BUET(ダッカ工科大学)の関係者、小売業者そして国際労働機関は、今週会議を開き問題を解決することになっている。しかし BUET の教授は、「コンクリートの強度について、アコードのエンジニアたちのアドバイスを認めることは、衣料産業界に破滅的な衝撃を与えることになる」と語った。また匿名希望の教授は、「これを認めればわが国の 40-50%の縫製工場を閉鎖することになるであろう。しかしもしわれわれの評価規準を彼らが認めれば、閉鎖は 10%の工場に抑えることができるであろう。私たちのところにはたくさんのバングラデシュの工場のデータがあるので、私たちが正しいと考えている」と話している。

8. インドと EU の FTA は、バングラデシュに大きな痛手

もしインドと欧州連合が自由貿易協定(FTA)に署名すれば、バングラデシュの衣料産業は打撃を受ける危険があると業界内部では不安が広がっている。外務省筋は、「インドに免税優遇を認めるであろう FTA の交渉が、まもなく始まる」としており、今年の終わるか来年の始めには、結果が出るであろう」と語った。EU はバングラデシュとパキスタンに「武器以外全てのもの」に免税を認めており、インドの製品には 12%を課税している。BGMEA の元会長シャフィウル・イスラム・モヒウッディンは、「もしインドの既製服が免税となったら、わが国の輸出に莫大な悪影響を及ぼすであろう。バングラデシュは T シャツ、ホーム・テキスタイルのような基本衣料製品で、競争力を失うであろう。我々が危ない状態になることは疑う余地もない。貿易優先制度は綿や糸、生地を生産しているインドで、基本衣料とホームテキスタイルの縫製ブームを起こすだろう。政府は背後に繋がる産業とテキスタイルの確立に努め、国内の既製服産業の材料も自給できるようにさせなくてはならない。インドの国内市場で材料が入手可能ということが、もう既にダッカに対してニューデリーを優勢に立たせている」と語っている。

9. 中国にバングラデシュ衣料製品を売り込み

バングラデシュのビジネスリーダーたちは、彼らの中国の取引先に、もっとアパレル製品を輸入し、少なくともそのシェアを 10%までに増やすように望んでいる。バングラデシュ商工会議所(FBCCI)会長カジ・アクラム・ウッディン・アハメドは、「中国はアパレル製品を年間 300 億ドル相当輸入している。しかし、中国はバングラデシュからその全体のアパレルの 1%以下しか輸入していない。我々は首相と中国訪問に同行したとき、中国のビジネスマンに少なくとも彼らの衣料製品輸入の 10%をバングラデシュから輸入してほしいと要請した。もし、中国による衣料製品の輸入の 10%を掴むことができれば、バングラデシュの中国へのアパレル輸出は1年間に30億ドルに達するであろう」と語っている。バングラデシュのアパレル船積は、2013 年度には北アメリカと欧州連合が主な輸出先で 215 億 1 千万ドルに達した。バングラデシュは中国との間に多額の貿易赤字を抱えている。2013 年度中国はわずか 4 億 8500 万ドルの輸入に対し、輸出のほうは 63 億ドル相当となった。

シーク・ハシナ首相は 2014 年 6 月 6 日から 11 日の間、中国を訪問した。合計 70 人のビジネスマンたちが首相に同行した。アハメドは、「中国のビジネスマンに、優先的で友好的な投資環境である特別経済地区(SEZ)に、もっと大きな規模で投資をしてほしいと要求することになっている。我々は彼らに産業パークか特別経済地区を用意することを約束する。首相が中国を訪問中に、コックスバザールの近くにあるソナディア島に、深海港を建設することに関してポジティブな結果に達するであろう。国営中国コミュニケーションズ・コンストラクション・カンパニー(CCCC)の子会社である中国ハーバー・エンジニアリング・カンパニー・リミテッド(CHEC)が、港の建設に融資することに興味を示している。この港の建設でわが国の GDP は 2%上昇することが期待されている。我々は北京でビジネスリーダーたちと会議もすることになっている。バングラデシュは安心して投資できる所であることを伝えるつもりだ」と話した。

10. 防火装置などの輸入、免税に

発表された国家予算でプレハブ建築の材料、スプリンクラーシステム、防火ドアそして非常ライトを含めた火災安全装置の輸入に対して、関税の免税が決定した。フレックス・ファイバーのようなテキスタイルの材料も、現在の 10%から 5%に輸入税を下げる提案があった。同じ処置が人工の短繊維にも適応されることになった。ムヒスは現金奨励金に対する源泉徴収が現在 5%であるところを 3%に減少させることも提案し、これで奨励発生率が増加するであろうと語った。衣料輸出の源泉徴収の減少率は現在の 0.80%から 0.30%となった。輸出部門でもっと競争させることができるようにするために他の輸出に対しては 0.80%から 0.60%に減少された。大臣の提案は衣料輸出業者に幅広く歓迎された。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)会長アティクール・イスラムは、「工場移転のプロセスも政府が動けばもっと速くなるであろう」と言った。「原料や安全器具の免税に対する予算提案はフレンドリーなものであり、我々の長期にわたる要求に応えたものとなった。もし政情安定が続けば、わが国の衣料輸出は 2021 年の終りまでには 220 億ドルから 500 億ドルに届くであろう」とイスラムは続けた。

バングラデシュテキスタイル・ミルズ協会(BTMA)会長ジャハングール・アラミンも、イスラムと同じように、政府の提案を歓迎した。BGMEA 元会長アニスル・ホックは、「我々も工場移転のための、政府からのソフトローンを希望する。国際小売業者はアイテムの価格を値上げしようとしな。だから政府からの小さな援助でもこの部門が成長していくのにとっても助かる。防火ドアひとつだけでも 70,000 タカかかる。どんな小さな工場でもこのようなドアを必要なところだけにつけても 10 個はつけなくてはならず、このような器具を免税にすれば、この部門のためになる」と話している。バングラデシュ・ニットウェア・メーカー及び輸出業者協会の会長代理モハマッド・ハテムは、「様々な国の政府と国際小売業者は火災安全器具を取り付けるよう圧力をかけている。こういう状況でこのような提案は、産業を成長させるのに大いに役立つのだ」と言った。

11. 23の職業訓練所新設

テキスタイル・ジュート省は、恵まれない若者たちに重要な技術を指導することを目的に、23 の職業訓練所を設置するため、21 億 6 千万タカ相当のプロジェクトに着手した。省庁では開発プロジェクト計画(DPP)の承認を受けるために計画省に送った。現在国内には 40 の職業訓練所があり、無職の若者たちが自立できるのを援助している。今回のプロジェクトの目的は、23 地域でテキスタイル職業訓練コースを導入し、貧困を減少させ、恵まれない若者たちの経済状態を向上させることである。これにより無職の若者たちが、事業を始める機会を生むことになり、それはテキスタイル産業、主に既製服(RMG)部門に技術のある労働力を生むことにも繋がる。このプロジェクトはバングラデシュが中所得国になるというビジョン 2021 年のゴールに達成することを助けるであろう。衣服の輸出は経済の重要な柱のままであり、400 万人以上を雇用している。このうちの 80%は女性である。

12. 発電量を14, 000MW へ

パワー・エネルギー・鉱山資源省の下にあるパワー局は、わが国の発電力を 2015 年 6 月までに 40%増加させて 14,000MW にすることを目標に定めた。来年度は再生可能資源から 300MW の発電をすることになっている。政府は天然ガスが不足しているため、輸入の液化天然ガス(LNG)を使用して発電を早めようとしている。国内初の原子力発電所もパブナのループールに建設されることになり、来年度の間に 1,000MW の発電が強化される。パワー局も電気供給のシステムロス率を現在の 12.18%から 11.42%に減少させる予定である。新しく配電と電線を増やし、現在使用されているものを修復することも目標にしている。長期再生燃料エネルギー開発局(SREDA)を設立し、様々な再生エネルギー関係のプログラムを実行する計画もある。その上、電気消費量を減少させるために、従来のバルブをエネルギー・セーブ・バルブに取り替えることも継続する計画をした。財務大臣 AMA ムヒスは、昨年度予算の 795 億 1 千万タカから 16,63%上昇させ 927 億 3 千万を配分し、パワー部門が開発事業を継続できるようにした。

以上